



自然化粧品認定 BDIH のご案内

be natural.
certified natural cosmetics



ドイツ化粧品医薬品商工連盟 日本事務局
(BDIH JAPAN Liaison Office)
〒108-6028
東京都港区港南2-15-1 品川インターナシティA棟28階
TEL:03-6717-6073
FAX:03-6717-6074

©2011 BDIH e.V.
このフライヤーの無断転写、複製、転載を禁じます。

be natural.





グリーン・ライフスタイル —— 人と自然との調和

人と自然環境が調和する緑豊かな社会を、私たちの生活習慣の中で維持し守っていこうとする動き(持続可能なライフスタイル)は、すでに多くの人が共感する価値・志向となり、おののの生活の中で実践し始めています。大切なのは“楽しみながら行う”ということ。自分が楽しいと感じることをする時に、同時に環境についても考えるという小さな試みから始めればいいのです。たとえば、買い物ひとつをとっても、

何を選んで購入するかによって、よりよい社会のために貢献できる場合があります。自然化粧品を選ぶこともそのひとつです。自然化粧品は環境に配慮して作られた製品であり、自然を守り維持することはまた、動物や絶滅危惧種の生物をも保護することに繋がっていくからです。

しかし、私達はどのようにして、そのような商品を見分ければいいのでしょうか。

ドイツ化粧品医薬品商工連盟

Bundesverband Deutscher Industrie - und Handelsunternehmen für Arzneimittel, Reformwaren, Nahrungsergänzungsmittel und Körperpflegemittel e.V. (略してBDIH)

be natural.

BDIHは、認証マークを付与した製品に対し、世界のどこであってもその基準が厳正に守られているよう、第三者機関による定期的な検査を受けることを義務付けています。そして、このマークを表示することができるには、ブランドの全商品のうち、60%以上の商品がBDIH基準を満たしている場合のみに限ります。今日までに、化粧品関連の5,800を超える製品が、その成分や組成について定期的な検査を受け、BDIH認証マークを表示しています。

化粧品に使用する原料の成分抽出や加工方法は、例えば水抽出のような自然にある物質を用いて行われる方法を推奨し、遺伝子組み換え

のような化学的な処理方法はほとんど認められていません。原料のほとんどは植物由来成分で構成され、わずかな鉱物や動物の分泌物(はちみつ等)を補足的に使用することは認められています。製造者がオーガニック栽培植物から生まれた成分を積極的に用いることで、遺伝子組み換え技術に対して反対の姿勢を示すことができるのです。

環境に優しい製造方法で化粧品を製造し、いわゆる“生物分解性”(原料や製品が自然環境に廃棄された際に微生物によって分解され土に還ること)を高めていくことは、簡易包装を用いることと同様、天然資源を保護することでも

あります。さらに、フェアトレードやエコロジカルワールドプロジェクトで仕入れた原料を使用することによって、発展途上国の自立や社会的な共生が促進されていきます。

BDIHガイドラインを守っていく中で、製法・仕様は均一化されていきます。けれども、それによって製品が画一的になるわけではありません。事実、自然化粧品メーカーは、それぞれのコンセプトに基づいた非常に個性的で革新的な製品を幅広く提供し続けています。

BDIH認定製品を提供する
全メーカーのリストを入手したい方は、www.ionc.infoにアクセスください。



www.ionc.info

BDIH ガイドライン

BDIHが自然化粧品製造におけるガイドラインを作成し、その基準を満たした製品への認証マークを付与する目的は3つあります。ひとつは“自然化粧品がどのような決まりの中で作られた化粧品であるか”を明確にしたうえで、消費者にわかりやすく伝えることです。そしてふたつめは、自然化粧品メーカーと販売業者間の販売競争をより公正なものにしていくこと。そして3つめは、原料の生産や成分の抽出方法、化粧品製造過程に至るまで細かい基準を設けることで、動物や絶滅危惧種を守る環境保護を行うことを目的としています。

「オーガニック」という言葉の使い方に関して
BDIH基準では、特定の植物(カレンデュラやカモミール等BDIHが指定した植物)から採取される成分は、認可されたオーガニック農法で栽培された原料から抽出されたものでなければなりません。それにもかかわらず、多くのメーカーはBDIH基準では求められていない場合でもオーガニック成分を使っています。BDIHでは“オーガニック品質”に対する正確な情報を消費者に伝えるため、「オーガニック」という言葉の使い方についても規定を設けています。

事実、「オーガニック」という言葉は、水と鉱物は除き、内容成分の95%以上がオーガニック成分で作られた自然化粧品にだけ与えられます。つまり、実際の製品に含まれるオーガニック成分のパーセンテージが考慮されます。そして、オーガニック成分がわかりやすく示されていれば、消費者は成分表示の中のどの成分がオーガニックなのかはっきり読み取ることができるはずです。

「オーガニック」という言葉がうたわれている自然化粧品は、水と鉱物を除き、定められたオーガニック成分が、少なくとも95%以上配合されています。この言葉が明記されることで、実際のオーガニック成分の配合率もわかるようになっているのです。そして、配合されたオーガニック成分がしっかりと明記されれば、消費者は全成分表示の中の、どの成分がオーガニック成分なのかをはっきりと見極めることができます。

認定されたオーガニック原料、「ポジティブリスト」、及び「オーガニック品質」という用語を使用する場合の必要条件に関するBDIHの規則の詳しい情報は、BDIHのウェブサイト www.ionc.info に掲載しています。

基準:

1. 植物由来成分

BDIHが規定する植物由来成分を用いる場合、その成分は認定を受けたオーガニック栽培による原料からとられたものを使用しなければならない。



2. 動物由来の原料と動物保護

動物由来の原料

動物によって分泌された物質(牛乳やハチミツなど)の使用は認められる。脊椎動物を殺傷して得られた原料(エミューオイル、ミンクオイル、マーモットオイル、動物の油脂、コラーゲン、生細胞など)の使用は禁じられる。

動物実験と最終製品

動物実験の実施または他機関への動物実験の委託の委託は禁じられる。これは製品の製造段階だけでなく開発段階や確認段階にも適用される。

動物実験と原料

1998年1月1日以前に市場に出回っていなかった原料は、動物実験での検査が行われていない場合に限り使用が認められる。なお、依頼主の代理や教唆によって行われたのではなく、また会社法の下では依頼主と全く関わりのない第三者機関が行った動物実験は、ここでは考慮されない。

3. 鉱物由来の原料

無機塩類、酸類、及び塩基類(硫酸マグネシウムや塩化ナトリウムなど)の使用は、一般的に認められる。

*項目「5. 使用が認められない原料」にあるものは除く。

4. 使用が認められる製造工程

水、植物性アルコール、炭酸、植物油脂、及び植物油脂から得られるグリセリンなどを用いた抽出など物理的工程や、自然の中で発生する酵素や微生物によるプロセスを利用した抽出方法も自然化粧品の製造において使用が認められる。加えて、加水分解、水素化、エステル化、またはその他の分解・濃縮プロセスによって、脂肪、油、ロウ、糖、デンプン、セルロース、タンパク質、多糖類、及びビタミン類などの天然物質から物質を得ることは認められる。承認されている物質は、最新の「ポジティブリスト」に規定されている。

5. 使用が認められない原料

以下のグループに含まれる原料の使用は禁じられる。

- 有機合成色素
- 合成香料
- エトキシ化物質
- シリコン
- パラフィン及びその他の石油由来成分

6. 保護

消費者を守る目的で、必要に応じて天然物質と同等な安全性と認められる以下の保存料を使用することができる。

- 安息香酸とその塩類
- サリチル酸とその塩類
- ソルビン酸とその塩類
- ベンジルアルコール

これらの保存料を使用した場合は、「保存料として [保存料の名称] を使用」と記載しなければならない。

7. 香料

ISO 9235の基準を満たす天然香料は使用が認められる。また、バイオテクノロジーによって生み出された香料もまた使用が認められる。

8. 放射線照射

植物・動物原料又は製品にイオン化放射線を照射することは認められない。



BDIH

1951年に創設され、マンハイムを拠点とする
BDIHは、メーカーと販売業者の連盟です。

BDIHはEHPM (European Federation of
Associations of Health Product Manufacturers : 欧州の健康関連製品のメーカー
でつくられた連盟) と、BLL (Bund für
Lebensmittelrecht und Lebensmittelkunde :
ドイツの食品法や食品科学に関する連盟) に
加盟しています。

自然化粧品の基準と2001年に導入された認証

マークを国際レベルでより効果的に定着させ
るために、BDIHはIONC (International Organic
and Natural Cosmetics Corporation) を設立し
ました。IONCは、BDIH基準に基づく自然化粧
品の検査を国際的に行っていいます。その結果、
BDIHの「認定自然化粧品」マークは全世界で
認識されるマークとなり、現在はドイツ語表記
から英語表記に変わりました。

さらに、BDIHはこの7年間にわたり欧州の主要な
自然化粧品団体と協力しています。その取り組
みによって、国ごとに異なっていたオーガニック

自然化粧品に対する基準が統一されました。
COSMOS基準は、各のシステムを廃止させ
ることなく、最低限の守られるべき基準を設けま
した。メーカーと消費者は、すでに定着して
いる基準を引き続き信頼することができます。

この件に関する詳しい情報は、ウェブサイト
www.cosmos-standard.org で
提供しています。

化粧品、食品(特にサプリメントとダイエット
食品)、及び医薬品(OTC医薬品を含む)の製造・
販売に関して、約500の加盟組織がBDIHに

法的な助言を求めてきます。この点については
BDIHの作業グループが主要な役割を果たし、
他の団体、当局、専門家、加盟組織と協力しな
がら現行の問題を取り組んでいます。



www.ionc.info

さらに詳しい情報については、
最新の情報を掲載しているBDIHのウェブサイト
www.ionc.info にアクセスください。

be natural.

www.ionc.info